



# 最近の統計調査結果から

2008年3月

【平成20年3月4日(火)～平成20年4月1日(火)】

## 統計調査報告

### 景気動向指数～1月速報～

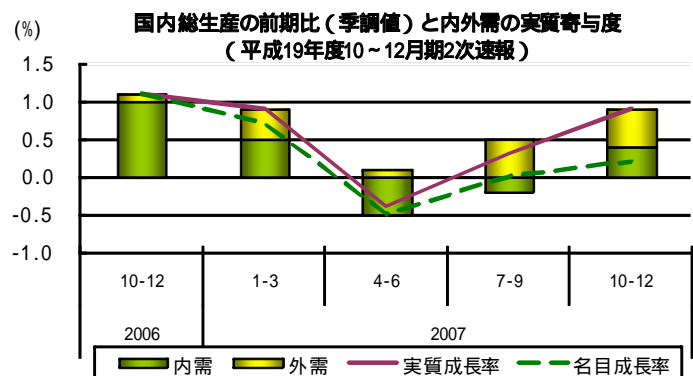
3月6日(木)内閣府発表

・1月のDI(速報値)は先行指数は30.0%、一致指数は22.2%、遅行指数は62.5%となった。先行指数は2ヶ月振りで50%を下回った。一致指数は2ヶ月振りに50%を下回った。遅行指数は3ヶ月連続で50%を上回った。

### 国民経済計算～10 12月期・2次速報～

3月12日(水)内閣府発表

- ・実質GDP(国内総生産)成長率(季調値)は0.9%(年率3.5%)。
- ・GDP成長率の寄与度は、実質は国内需要(内需)が0.4%、財貨・サービスの純輸出(外需)が0.5%となった。



### 平成19年度高校・中学新卒者の就職内定状況等調査(平成20年1月末現在)

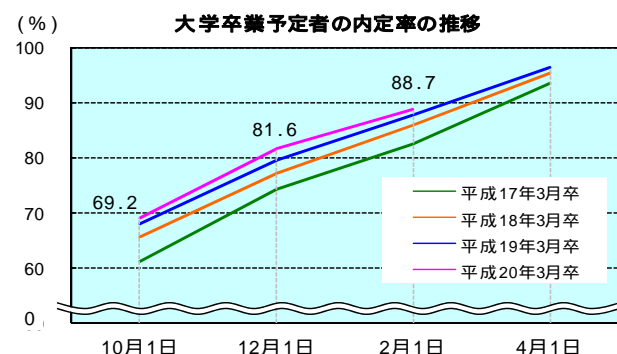
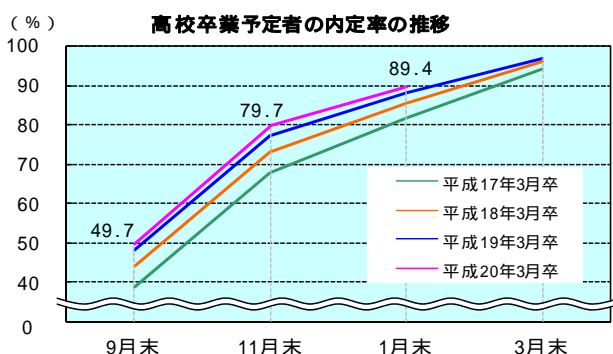
3月14日(金)厚生労働省発表

- ・高校新卒者の就職内定者数は16万9千人で、前年同期を0.3%上回り、就職内定率は89.4%で、前年同期を1.3ポイント上回った。求人倍率は1.79倍で、前年同期を0.09ポイント上回った。
- ・中学新卒者の就職内定者数は7百5十人で、前年同期を7.3%下回り、就職内定率は25.7%で、前年同期を1.1ポイント下回った。

### 平成19年度大学等卒業生就職状況調査(平成20年2月1日現在)

3月14日(金)厚生労働省・文部科学省発表

- ・大学の就職内定率は88.7%で、前年同期を1.0ポイント上回った。
- ・短期大学の就職内定率(女子学生のみ)は76.7%で、前年同期を6.1ポイント上回った。
- ・高等専門学校(男子学生のみ)の就職内定率は99.6%で、前年同期を1.2ポイント上回った。
- ・専修学校(専門課程)の就職内定率は81.6%で、前年同期を1.7ポイント下回った。



**平成19年賃金構造基本統計調査(全国)結果**

3月18日(火)厚生労働省発表

- ・所定内給与額(一般労働者)は、男女計で301,100円(前年比0.2%減)となっている。男女別には、男性は336,700円(同0.3%減)、女性は225,200円(同1.2%増)。
- ・短時間労働者の1時間当たりの賃金は、男性で1,085円(同2.6%増)、女性で962円(同2.3%増)。

**第5回21世紀成年者縦断調査(国民の生活に関する継続調査)**

3月19日(水)厚生労働省発表

- ・平成14年に20~34歳であって、この4年間(平成14~18年)に結婚した女性について、結婚前後の就業状況の変化をみると、「同一就業継続」は44.5%、「離職」は28.7%、「転職」は11.3%等となっている。

**法人企業景気予測調査(平成20年1~3月期調査)**

3月24日(火)内閣府・財務省発表

- ・平成20年3月末時点の「従業員数判断」BSI(「不足気味」-「過剰気味」)を全産業で見ると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも引き続き10ポイント超の「不足気味」超となっている。平成20年9月末までの先行きを全産業で見ると、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

**消費者物価指数~2月~**

3月28日(金)総務省発表

- ・消費者物価指数(平成17年=100)は100.5となり、前年同月比で1.0%の上昇、生鮮食品を除く総合指数は100.4となり、前年同月比で1.0%の上昇と、それぞれ5ヶ月連続の上昇となった。
- ・3月の東京都区部は100.5となり、前年同月比で0.6%の上昇、生鮮食品を除く総合指数は100.3となり、前年同月比で0.6%の上昇。

**家計調査~2月~**

3月28日(金)総務省発表

- ・二人以上世帯のうち勤労者世帯の実収入は、前年同月比で実質マイナス0.1%と、4ヶ月連続の減少。

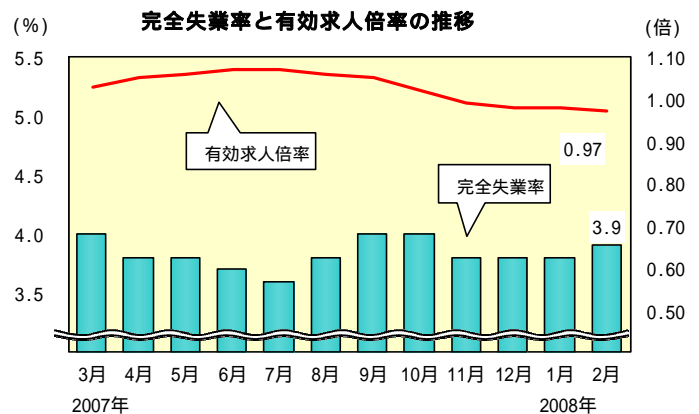
**労働力調査~2月~**

3月28日(金)総務省発表

**一般職業紹介状況~2月~**

3月28日(金)厚生労働省発表

- ・20年2月の完全失業率(季調値)は3.9%、男性は4.0%、女性は3.8%といずれも前月に比べ0.1ポイントの上昇。
- ・20年2月の完全失業者数は256万人と、前年同月差8万人の減少。
- ・20年2月の雇用者数(季調値)は、5,511万人と、前月差13万人の減少。
- ・20年2月の有効求人倍率(季調値)は0.97倍で、前月を0.01ポイント下回った。



**鉱工業生産指数~2月速報~**

3月31日(月)経済産業省発表

- ・鉱工業生産指数(季調値)は前月比1.2%と2ヶ月連続の低下。製造工業生産予測調査によると、3月上昇の後、4月は低下を予測している。

**毎月勤労統計調査~2月速報・平成19年年末賞与確報~**

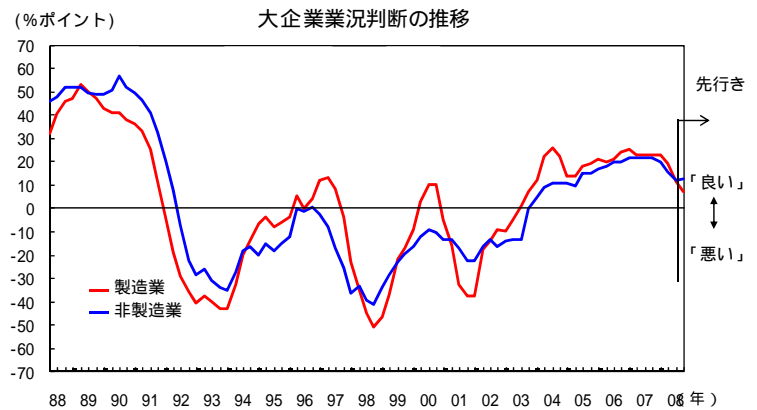
3月31日(月)厚生労働省発表

- ・20年2月の現金給与総額(規模5人以上)は前年同月比1.3%増加。きまって支給する給与(規模5人以上)は前年同月比1.0%増加。
- ・製造業の所定外労働時間(規模5人以上)の20年2月(季調値)は前月比2.1%増加。
- ・平成19年の年末賞与(規模5人以上)は前年比2.8%減の417,507円。

企業短期経済観測調査（短観）～ 3月～

- ・全国大企業の業況判断D.I.（「良い」 - 「悪い」）は製造業で11（前期19、先行き7）。非製造業は12（前期16、先行き13）。
- ・雇用人員判断D.I.（「過剰」 - 「不足」）は、大企業全産業で-12（前期-13、先行き-13）。

4月1日（火）日本銀行発表



## 研究会報告等

月例経済報告～ 3月～

3月19日（水）内閣府発表

- 景気回復は、このところ足踏み状態にある。（前月：景気は、このところ回復が緩やかになっている。）
- ・輸出は、緩やかに増加している。生産は、横ばいとなっている。（前月：生産は、増勢が鈍化している。）
  - ・企業収益は、弱含みとなっている。設備投資は、おおむね横ばいとなっている。（前月：企業収益は、改善に足踏みが見られる。設備投資は、緩やかに増加している。）
  - ・雇用情勢は、厳しさが残るなかで、改善に足踏みが見られる。（前月とかわらず）
  - ・個人消費は、おおむね横ばいとなっている。（前月とかわらず）
  - ・住宅建設は、おおむね持ち直している。（前月：持ち直しの動きが見られるものの、依然として低い水準にある。）

月例労働経済報告～ 3月～

3月27日（木）厚生労働省発表

- ・労働経済面をみると、雇用情勢は、厳しさが残るなかで、改善に足踏みが見られる。（前月とかわらず）

平成19年版働く女性の実情

3月28日（金）厚生労働省発表

- ・女性の労働力人口は4年連続で増加し（2,763万人）、労働力率は前年同の48.5%であった。
- ・M字型カーブの底にあたる30～34歳層の労働力率は前年と比べ1.2ポイント上昇し、35～39歳層（64.3%）とほぼ同水準の64.0%となった。

「最近の統計調査結果から」は、当機構ホームページにも掲載されております。  
 なお、労働経済に関する指標をコンパクトにまとめた「主要労働統計指標」も作成しております。  
<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/index.html>  
 [次号予定5月1日（木）] 独立行政法人 労働政策研究・研修機構 調査・解析部